

令和7年度分 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

事業所名	子ども発達総合支援センター			
保護者評価 実施期間	令和 7年 12月 15日 ～ 令和 8年 1月 30日			
保護者評価 有効回答数	対象者数	74人	回答者数	29人
職員評価 実施期間	令和 8年 1月 7日 ～ 令和 8年 1月 16日			
職員評価 有効回答数	対象者数	17人	回答者数	17人
事業所向け自己評価表 作成日	令和 8年 2月 27日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で支援・連携ができる	・多職種が連携し、各々の専門的視点から多角的にこどもの特性を捉え、最善の支援を検討し提供している。	引き続き、専門職員間で連携し、多様な支援方法を検討していく。
2	専門性を活かした支援を行っている	・特性や発達段階、複数の障がい要因に応じた、専門性の高い支援を提供している。	・研修等により各自のスキルアップを図り、職員の専門性を高めていく。
3	継続した支援ができる	・児童発達支援、保育所等訪問支援等、継続してこどもと関わるとともに、長期的に保護者からの相談にも対応できる。	・発達段階や特性に合った支援、途切れない相談体制を構築していく。 ・児童発達支援を終了した新1年生に対し、必要に応じて、集団療育を実施する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブ等との交流がない	・センターを利用しているこどもは市内全域から通所し、日常では地域の学校等に通学しているため、地域や他のこどもたちとは、就学先で交流していると捉えている。	・保護者のニーズ調査等をもとに、交流の必要性を検討していく。
2	保護者同士の交流機会が少なく、きょうだい同士の交流機会はない。	・個別訓練のため、保護者同士の交流機会がほばない。 ・児童発達支援センターとして、通所支援のほか、保育所等訪問支援、家族支援等、多種多様な支援に取り組んでおり、投入できる職員数に限りがある。	・保護者交流会の開催時間等を検討していく。 ・センターの体制も含め、きょうだい同士で交流する機会の直接的な設定ではなく、まずはきょうだい児を支援する家族団体に対して、活動場所の提供や専門職員の助言を通じ、きょうだい児や保護者の交流、思いが共有できる場づくりを間接的に支援していく。